

我が事・丸ごと

地域共生社会

第5回

ほっとけん市民みんなでつくるほっとかんまち 高松。

高松市では、誰もが住みよい街となるために「8050問題」など、分野をまたぐお困りごとにも柔軟に対応し、本人や世帯に寄り添った支援が行えるよう、各種相談支援機関などのネットワーク強化に取り組んでいます。

また、高齢者の居場所において、子どもたちとの交流を図るなど、世代や属性を超えて交流できる多様な場づくりなどを行い、孤立しがちな方が、地域とつながることができるよう環境整備に努めています。

これらは「だれひとり取り残さない」SDGsの理念にも通ずる重要な取り組みでもあります。

皆さんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう「ほっとかんまち高松。」をもに創っていきましょう。

地域共生社会のイメージ



支援が必要な人と支援の担い手が、支え手・受け手に分かれることなく住民のネットワークでつながり、地域福祉ネットワーク会議などの協議の場で、地域生活課題を把握し解決を目指す取り組みが行われること。そして、そのような地域の取り組みをバックアップする、制度・分野を超えた、様々な支援機関のネットワークをつくること。この2つの実現により、一人一人の暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指します。

お問い合わせ

健康福祉総務課

地域共生社会推進室

839・2372

HPはこちら



担当者からひとこと
人と人のつながりを
セーフティネットに

支援の現場で「どこに相談すればよいか分からなかった」という声をよく聞きます。

頼れる親族とのネット

ワークやご近所との社会関係がなく、社会から孤立し、制度になじまない人やSOSを出せない人が取りこぼされていると感じます。

地域には、ゴミ出しや買い物代行などの支え合いや、高齢者や子どもたちの居場所など、さまざまな活動の「場」があり、そこでは自分の役割のほか、多くの人との出会いが見つかります。

このような取り組みが、広がり重なり合うことで育まれる、住民同士の気にかける関係性そのものがセーフティネットになると考えています。

これから、手のつなぎ先がたくさん増え、網の目が小さくなるように、住民の皆さんと一緒に、地域づくりに向き合ってまいりますので、ご協力をお願いします。



健康福祉総務課
地域共生社会推進室
室長 藤川盛司